

令和2年度 第1回 宇都宮市民大学運営協議会

令和2年4月実施

次 第

1 議 題

- (1) 令和元年度宇都宮市民大学事業報告について・・・資料1
- (2) 令和元年度宇都宮市民大学収支決算について・・・資料2
- (3) 令和2年度宇都宮市民大学事業計画（案）について・・・資料3
- (4) 令和2年度宇都宮市民大学収支予算（案）について・・・資料4

2 議事の承認について

別紙「令和2年度第1回宇都宮市民大学運営協議会 議事の承認について」に、ご記入いただきご返送くださいますようお願い申し上げます。

宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間
(平成30年9月1日～令和2年8月31日)

令和2年4月1日現在

No.	氏 名	所 属 団 体 等 役 職
1	【推薦依頼中】	宇都宮大学 広報・地域連携室長 【新委員】
2	あべ 阿部 ゆり	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長 【新委員】
3	えだ 江田 そういち 壯一	宇都宮短期大学 事務局長
4	おおやま 大山 しんいち 真一	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
5	かわしま 川島 やすお 育郎	株式会社栃木放送 報道制作局長
◎	かわもと 川本 きよし 清	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
◇	こばり 小針 きょうこ 協子	とちぎ協働デザインリーグ ゆめ評定 理事
○	しまだ 島田 しげお 繁雄	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
◇	のなか 野中 まさとも 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
10	はせがわ 長谷川 きょうこ 京子	宇都宮市中央生涯学習センター利用団体代表

(五十音順)

◎ 会長 ○ 副会長 ◇ 監事

令和 2 年度宇都宮市民大学事業報告について

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため前期専門講座は中止とし、後期専門講座は受講者を減らして開催した。また、新たな手法による公開講座も、(前期・後期各 1 講座)、専門講座を 1 2 講座(前期 6 講座、後期 6 講座)開催した。

開催期間は、令和元年 5 月 2 7 日(月)～1 2 月 2 1 日(土)、受講者数は公開講座 2 8 3 名、専門講座 6 6 2 名で専門講座の修了者は 6 1 8 名(修了率 9 3. 4%)となった。

1 公開講座

「別紙 1」のとおり

2 専門講座

「別紙 2」「別紙 3」のとおり

3 総評と課題

・前期・後期通して全体の定員を上回る申し込み希望があり、受講者の各専門講座の修了率も全体で 9 3 %と高く、受講者アンケートにおいても成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が全体の 9 6 %を占めるなど、受講者の満足度の高い講座を実施することができた。

・後期講座においては、台風 1 9 号の被害が市民生活にも大きな影響があったことから、受講キャンセル者が 4 0 名超に上った。公開講座当日も荒天で参会が難しい状況であったが、熱心な受講生のもと実施することができた。

・新規申込者の拡大策として、より多くの市民に高度で専門的な学習ニーズに応えられるよう、新たに市内の高等教育機関である栃木県立衛生福祉大学校との連携講座の実施や、土曜の講座開設などに取り組んだことにより、前期定員 310 名のうち 46 名(14. 8%)、後期定員 290 名のうち 47 名(16. 2%)、全体で 15. 5%(前年度対比 3. 0%増)が新規受講者となった。さらに、若い年代の関心を引きつけることができる講座設定や、広報などの手法(SNS など新たなツールによる周知)を検討していく。

・今後も、市民の知的好奇心を満たすため、個人の要望に基づく趣味・教養的な学びを提供するとともに、幅広い学習内容での実施に向け、現代的な課題や旬の話題を積極的に講座に取り入れるよう企画者(V スタッフ)への周知に努めるほか、企画選考において配慮することにより、受講者満足度の向上や更なる新規受講者の獲得を図っていく。

令和元年度 宇都宮市民大学合同開講式・公開講座実施状況

別紙 1

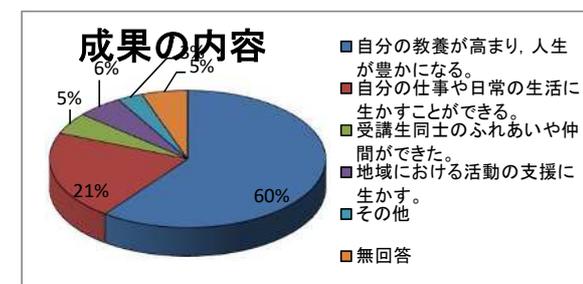
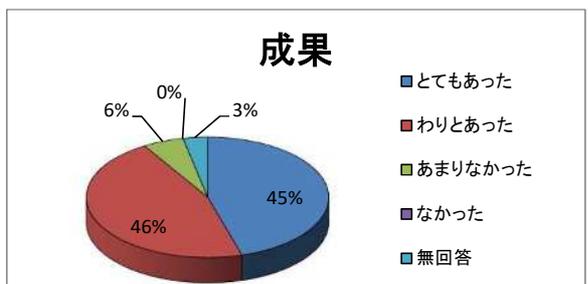
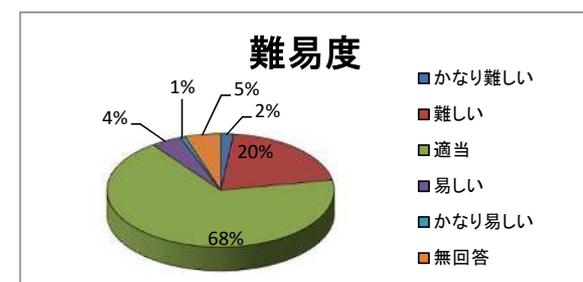
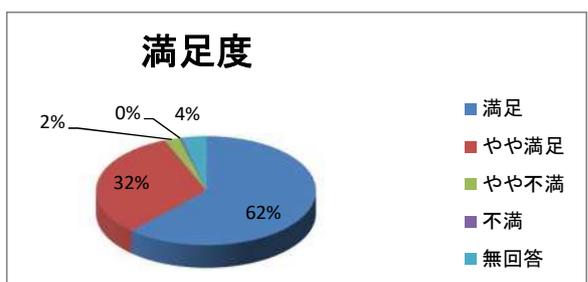
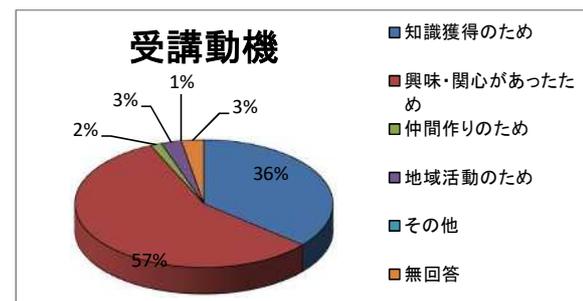
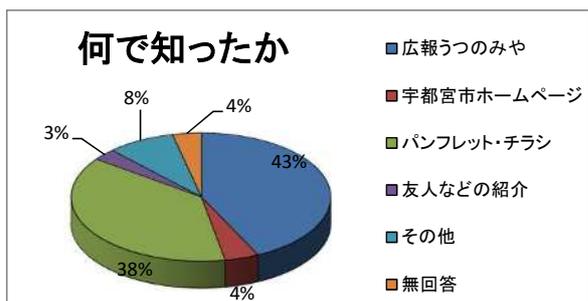
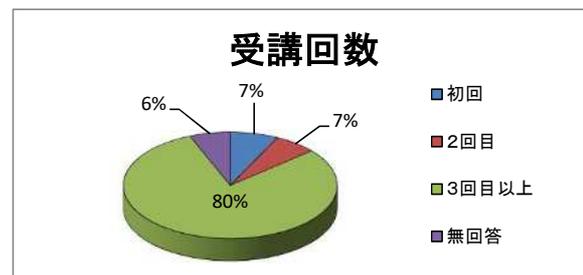
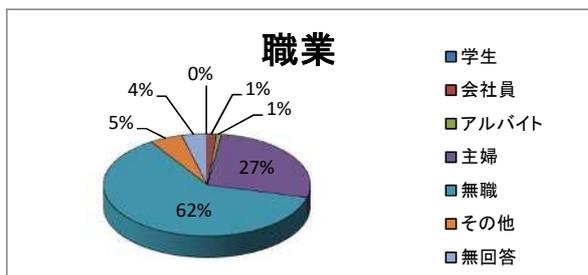
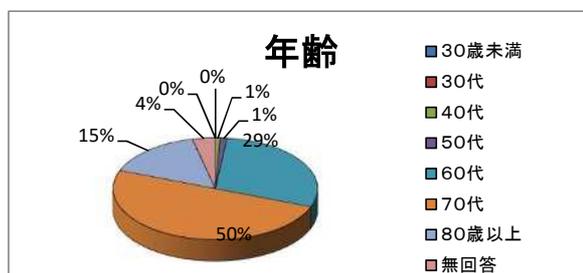
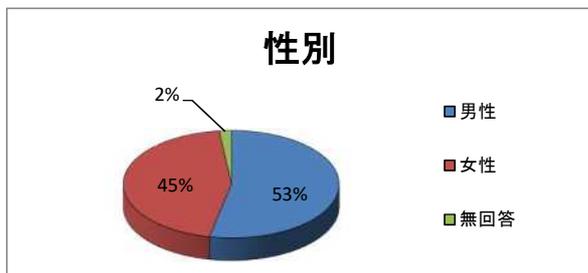
		開催日時・会場・受講人数	実施内容	講座の評価	(参考) 受講者の感想・意見
前期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> 開催日時 令和元年5月27日(月) 午後2時～午後4時 会場 宇都宮短期大学 長坂キャンパス 須賀友正記念ホール 受講者数 158名 	<ul style="list-style-type: none"> 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育次長 菊池 康夫 宇都宮短期大学 学長 須賀 英之 氏 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育次長より 受講者代表2名へ交付 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者のアンケートでは、約7割が「とても意義がありよかった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。 受講者が一堂に会す唯一の機会であり、公開講座を経て市民大学が開講するという意識を高めることに結びついている。 共催事業として宇都宮短期大学で開催したことは、受講者が市内大学の魅力に気づいたり、親しみをもったりする機会にもなり、受講者の意欲向上へとつながったものと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 開講するというセレモニー、これから始まるという気持ちになった。 市内にある大学教育機関で受講できることを、嬉しく思う。 得た知識をそれだけにせず実践に結びつけるようにしていきたい。 企画者紹介が省かれ残念だった。 形式的でつまらない。特に必要がなかった様に思う。
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> テーマ 人生100年時代、地域で暮らす豊かな生活のために～地域における音楽療法の実践から～ 講師 宇都宮短期大学 音楽科 専任講師 大島 美知恵 氏(音楽療法) 専任講師 阿久澤 政行 氏(ピアノ) 専任講師 鎌田 亮子 氏(歌唱) 講義内容 ピアノと声楽による生演奏等と、音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりする音楽療法の実技体験を通して、音楽を心身の健康維持や生活の質の向上へ理解を深める講座。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者アンケートでは、「とてもよかった」「どちらかといえばよかった」の意見が97%と、非常に満足度の高い講座であった。 「人生100年時代を心身ともに豊かで健康に送る」という内容や音楽療法という新しい健康維持へのアプローチの方法や講師の生演奏は受講者への大きな刺激となった。 受講者からは「音楽療法は日常に取り入れたい。」「介護予防にも活用したい。」「素晴らしい音楽であった。」「などの声が多く寄せられ、本講座の目的である音楽療法を生活に取り入れて自身の健康やQOL向上を考えるきっかけづくりに繋がったものと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 100才時代に生きている者としての自覚をあらためて高められた。 前半のピアノ、ソプラノの力強さ等感動のものであった。 心にしみる歌・演奏の後に講義があり、その内容を裏打ちさせるもので、構成面でも納得させられました。 音楽療法の実技が大変楽しかった。今後取り組んでいこうと思う。
後期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> 開催日時 令和元年10月25日(金) 午後2時～午後4時 会場 宇都宮市立南図書館 サザンクロスホール 受講者数 125名 	<ul style="list-style-type: none"> 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会事務局 教育長 小堀 茂雄 宇都宮大学地域創生推進機構 副機構長 中村 真 氏 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 西田 直樹 氏 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より 受講者代表2名へ交付 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者のアンケートでは、7割以上が「とても意義があった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。 合同開講式は受講者が一堂に会する唯一の機会であり、学びの中間の存在を強く認識できる場であることなどから、受講者満足度に繋がったものと考察される。 合同開講式参加により、学ぶ姿勢や意欲がより向上したという意見も見受けられ、受講者の学習意欲の高揚につながったと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 貴重なおごそかな式で感謝したい。 専門講座等の企画者による、主旨や展開のアピールもあつたらいいのではないか。 ご出席いただく皆様の貴重な時間を割いてまで実施する意義があるとは思えない。
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> テーマ あそびの天才 道具を使う天才 「鳥」～くろの羽装(うそう)につつまれた能力～ 講師 宇都宮大学 名誉教授 杉田 昭栄 氏 講義内容 古典や文化でのカラスの位置づけに始まり、遊びや道具の使用など世界で見られるカラスの知的な行動や、脳科学など医学的な知見も踏まえて、身近にいる「鳥」について考える講座。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講によって「カラスの見方が変わった、親しみを持てるようになった」とのポジティブな感想を持った人が多数見受けられた。 講師が準備した様々な分野・多数の写真による資料と解説があり、「興味深かった」「面白かった」との意見が多数あつた。専門的で限定的な内容を扱ったにも関わらず、「つまらない」「分かりにくい」との否定的な意見はほとんど見られなかった。 また、講師が受講者にクイズを出したり休憩時間に軽いストレッチを促したりするなど、コミュニケーションを図ったことも、高い満足度に繋がったものと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段聞かないジャンルの話で、面白かった。 今日のカラスは嫌われ者に思われるが、尊ばれたカラスもいる。古代の人は、なぜカラスを神としたのか、考えるのも良かった。 鳥の能力生体を知ることができた。特に実験の結果が興味深かった。 邪魔物扱いされ、不吉なことが起こると嫌われる鳥だが、鳥の生態や歴史等々を学び、より一層鳥について調べてみようと思った。 参考になる話だったので、メモが出来るテーブル付きの会場が良かった。

令和元年度 宇都宮市民大学前期専門講座実施状況

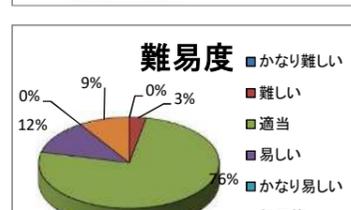
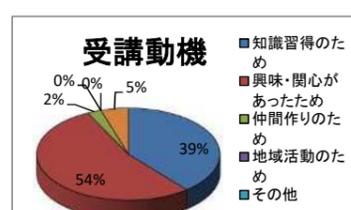
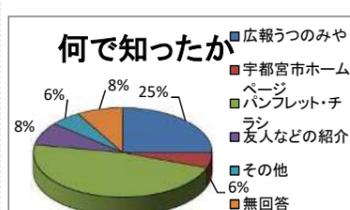
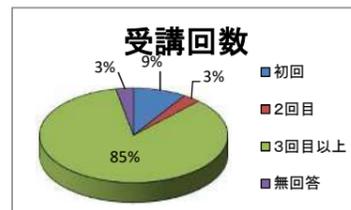
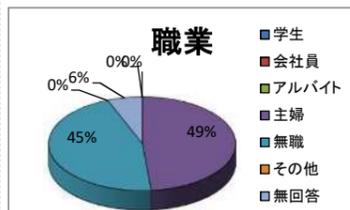
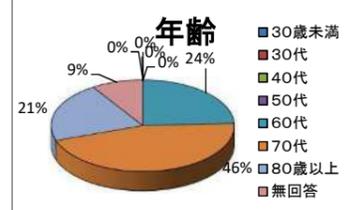
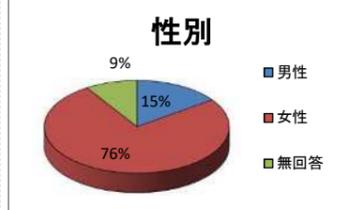
コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	近代を切り開いた栃木の女性たち ～女性であるからこそできたこと、 女性だから見えたもの～ (全5回)	須賀栄子と後継者の著書 渡辺基氏 谷中村の遺跡を守る会 会長(宇都宮大学名誉教授) 高際澄雄 氏 獨協医科大学 元看護学部長 加藤光實氏 鈴木賢二版画館如臨房主宰 鈴木解子氏 栃木県立博物館 名誉学芸員 柏村 祐司 氏	5/28～ 6/25	(50) [47] 47	43 [40] 93.0%	女性がテーマということもあり、受講生の9割が女性という稀な講座となった。栃木県に縁のある、教育に情熱をささげた栃木県女子教育の先駆者須賀栄子、田中正造を尊敬し婦人解放運動のさきがけとして知られ東洋のジャンヌ・ダルクと称された福田英子、黒羽藩家老の娘として生まれ看護師として生きた大関和、芸術家の夫鈴木賢二を支えた妻よし、天才画家青木繁の妻でもある女流画家福田たねの5人の女性の足跡を、歴史的な背景や社会等に与えた影響について学んだ。女性の社会進出が認められない時代に信念を貫き偉業を成し遂げた生き方は、受講生の今後の励みとなる満足度の高い講座となった。	・栃木県出身でこの様な女性の先駆者がいることを学び、少しでも近づける女性になれるよう今後の人生に活かしたい。 ・第4回の看護師大関和氏の偉業について全く知らなかったので興味深い講座となった。 ・第5回講師の話は聞き取り易く具体的でよかった。 ・知らなかった方の活躍を学び知識が広がり、故郷への思いを改めて感じた。 ・第1回の講師は、声の大きさ・話し方が不適切で聞き取りにくかった。
I	宇都宮の明治維新 ～戊辰戦争でどう変わったのか～ (全7回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏	6/4～ 7/16	(80) [123] 85	79 [75] 94.9%	戊辰戦争は以前にも取り上げられたテーマではあったが、定員を大きく上回る申し込みがあり、宇都宮での明治維新への関心の高さが窺われた。資料は講師自らの足で歩いた戊辰戦争史跡を基に作られ、土方歳三が宇都宮城を陥落させた時のエピソード等、詳しい説明があり、受講生からは講義時間を過ぎてでも質問が続き、熱い講座となった。最終回の「戊辰戦争史跡探訪に向けて」は講座の「まとめ」にもなり、各自が時間的な制約もなくそれぞれの思いで史跡を巡り、講座を振り返る機会になり、館外学習とは違う新たなよいプログラムだったと思われる。	・知らない事の多い明治、これを機にもっと学びたい。 ・戊辰戦争の細かな経緯が分かり興味深かった。 ・「宇都宮県の開設、展開」も興味深かった。 ・関西から来たため、表題の割に掘り下げが少ない。もう少し宇都宮との関連を詳細に知りたかった。 ・敵、味方の区別なく政府からのお答めにも屈せず墓(六道の辻)を作って引き継いできたことに感動を覚えた。 ・明治維新の神仏分離令により神社仏閣に大きな影響があったことが分かり、今後とも注意深く耳を傾けていきたい。
II	人生100年時代、地域で暮らす豊かな生活のために ～心(心理)と身体(看護・食・医療・介護)の今から～ (全5回) 〔宇都宮短期大学連携講座〕	宇都宮共和大学子ども生活学部教授 杉本 太平 氏 宇都宮短期大学 人間福祉学科准教授 益川順子氏 食物栄養学科特別講師 吉野ひろみ氏 人間福祉学科講師 北爪あゆみ氏 人間福祉学科助教 松山紀彦氏	6/10～ 7/8	(30) [45] 45	40 [36] 90.0%	大学連携による「人生100年時代」の講座は、定員を超える申込みで人気があり、修了率・満足度も高く好評だった。講座は各回テーマ・講師が違い多分野に亘り、日常生活に役立つ具体的で且つ最新の情報も提供される大変充実した内容だった。特に第2回講座で講師が配布した「緊急医療情報連絡カード」は大好評で、その後受講者の一人はすぐに地元老人会で広めるなど「学んだ成果を地域社会で活かしていく」という生涯学習の目的に叶ったものとなった。	・とても良い講座でした。先生方の現場の声をもっとお聞きしたい。続編を企画して下さい。 ・自分自身のために得た知識を、地元老人会で広めていきたい。既に「緊急医療情報連絡カード」は紹介した。 ・時代に合わせた講座は勉強になった。 ・生活にすぐ役立つ講座で大変有意義でした。 ・介護保険について、現在の制度は知っているのですが、これからの予測を聞きたかった。 ・「地域とのかかわり方」について具体的な話が聞きたかった。
III	南極大陸 ～知られざる世界の魅力～ (全8回)	気象庁気象研究所 元 地球化学研究部長 緑川 貴 氏 国立極地研究所 極地工学研究部門 元 技術職員 石沢 賢二 氏 国立極地研究所 副所長 伊村 智 氏 名誉教授 山岸 久雄 氏 南極・北極科学館ミュージアム ナビゲーター 川久保 守 氏	5/30～ 7/18	(50) [65] 50	46 [40] 87.0%	定員を超える申込があったが館外学習を予定していたことから、定員どおり受講決定した。多くの謎に包まれた南極に、幾多の苦難を乗り越え挑み続けてきた日本の観測隊を支えた技術、過酷な環境のもと命を繋いできた生き物たち、オーロラの謎など、私たちの想像をはるかに超えた世界について、実際に越冬を体験した講師からデータを基に学んだ。日本のチームによるオゾンホール発見により、フロンガス使用禁止へ繋げた功績なども紹介され、過酷な南極観測は世界貢献に繋がることを知る機会となった。館外学習も、南極観測で使用した実物を手にすることが出来、受講者に満足度の高い講座となった。	・温暖化の研究に南極観測が重要であることは判ったが、今後の予想の話も聞きたかった。 ・南極大陸と宇宙が共通している点が多くあることがわかった。 ・講師の方々の熱い情熱に感動した。厳しい環境の中で研究されたことが未来に活かされていくのだと実感した。 ・昭和基地創立から長き年月をかけ今や世界有数の科学基地になっていることに、調査に携わった方々に尊敬の念を抱いた。 ・南極大陸について、自分とは関係のない別世界と思っていたが、今回の受講を通じて身近に感じるようになった。 ・南極を愛してやまない先生方の熱心な講義に感動した。
III	江戸の科学力！！ ～世界最高の自然科学は江戸時代に始まった～ (全6回)	国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長 鈴木 一義 氏	6/3～ 7/8	(50) [80] 80	73 [72] 98.6%	理系のテーマで、男性からの申し込みが多く、定員を大きく上回ったが、講師の了解を得て全員を受け入れた。江戸時代を「科学」の視点で捉えると、鎖国時代ながら識字率が高く、生活に根付いた「測量」や「数学」が世界水準を上回るほどに発達し、蘭学も取り入れた「医学」の知識は各藩主により、藩内に広められ、豊かな時代だったことが理解でき、毎回思いがけない驚きのある講座となった。からくり人形や測量時の道具や、当時の民衆に流布した薬草の本など、手に取って見られたこともあり、修了率が非常に高く、受講生にとって大変満足度の高い講座になったと思われる。	・講師の溢れるような知識に有意義な時間を過ごせた。 ・日本人の「知識」「技術力」にビックリした。 ・江戸時代に科学力が十分にあり、日本民族が非常に優秀で素晴らしいことが分かり、頼もしく思った。中高生にも聞かせたい。 ・江戸時代、災害にどのように対応されたのか知りたい。 ・將軍、大名の見識の高さに比べ現代の政治家の文化学問の理解の低さから今後の日本の科学が危ぶまれる。 ・鎖国によりガラパゴス化し、独自の発展を遂げたことが理解でき、面白い講座だった。
III	三国志の世界 ～英雄たちの群像～ (全6回)	早稲田大学理事・文学学術院教授 渡邊 義浩 氏 早稲田大学非常勤講師 高橋 康浩 氏	6/8～ 7/13	(50) [62] 62	55 [53] 96.4%	前期唯一の土曜日午後の講座であったが、定員を超える応募があった。陳寿(ちんじゅ)が著した歴史書『三国志』と、前者を基に物語を加え羅貫中(らかんちゅう)がまとめたとされる『三国志演義』について、講師の丁寧な解説とDVDを活用した映像により英雄たちの群像を通してその違いを学んだ。古代中国の歴史でもあり、類似の名称も多く難しい内容であったが、事前に自己研鑽に取り組んで臨む受講者も多く、資料等に熱心にメモを書きとめる姿に興味・関心の深さを感じた。受講者の期待通り、知的好奇心や学習意欲を高めた講座となった。	・高校の世界史の授業で感じなかった古代中国の状況をより詳細に感じることができた。 ・史実と演義の差異が部分的ではあるが理解できた。史実に基づく内容を再度読み返すきっかけになった。 ・三国志の歴史の流れについて、改めて興味が深まった。 ・この講座を通じて、中国文明・文化の本を読みたいと思った。 ・講座準備、資料展示が素晴らしく感じた。受講料徴収の価値はあると思う。 ・史実と作り話を分けて説明を頂いたので、三国志の流れについて改めて興味が深まった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	310人	【総合的な評価】 6講座中5講座について定員を超える申込みがあり、修了率も今年度から公開講座出席数を含めなくなったことも多少影響してか 94%と高かった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の91%を占めた。これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。		
			応募者数	422人			
			受講決定数(開講前)	369人			
			受講者数(開講後)	336人			
			修了者数	316人			
			修了率(修了者/受講者)	94.0%			

令和元年度宇都宮市民大学前期専門講座 アンケート結果

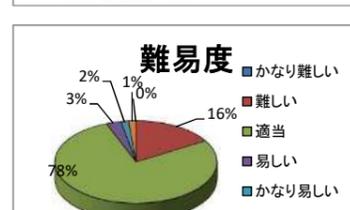
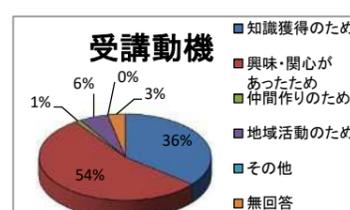
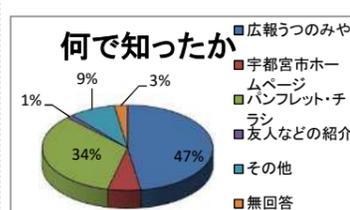
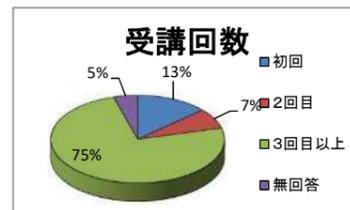
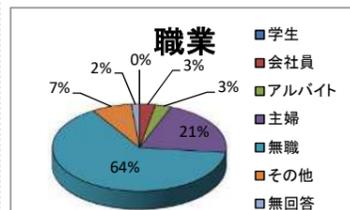
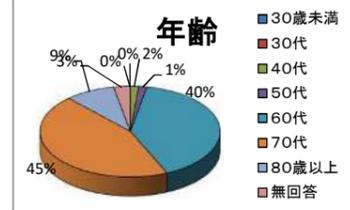
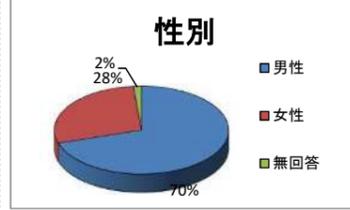
- 1 受講者数 336名
- 2 アンケート回答数 276名
- 3 アンケート回収率 82.1%



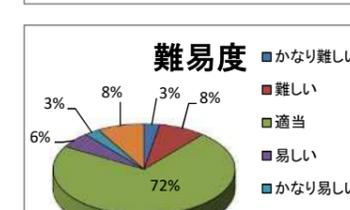
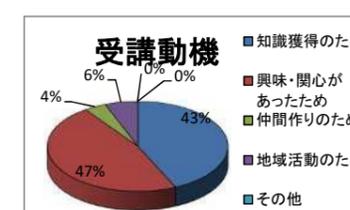
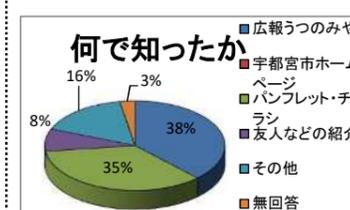
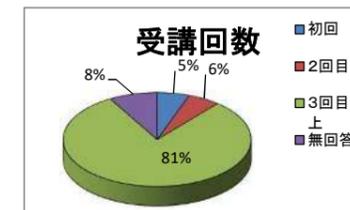
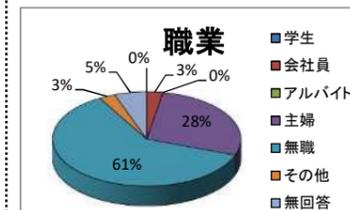
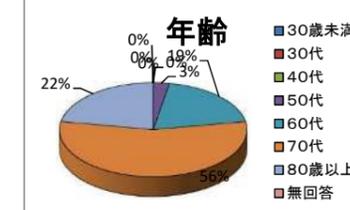
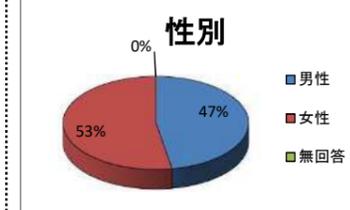
①近代を切り開いた栃木の女性たち



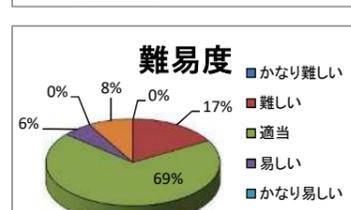
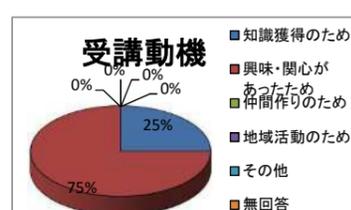
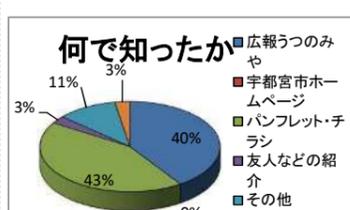
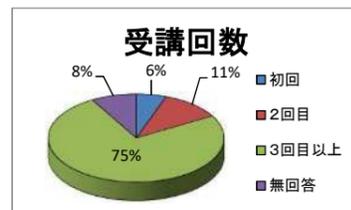
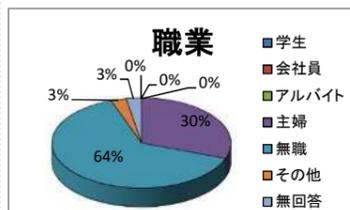
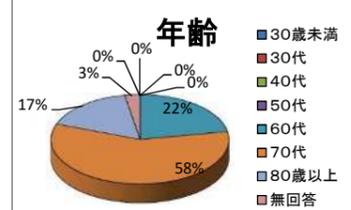
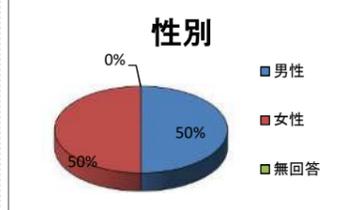
②宇都宮の明治維新



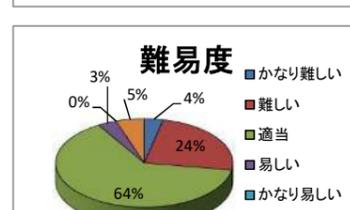
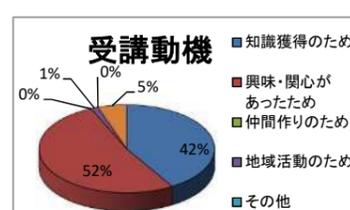
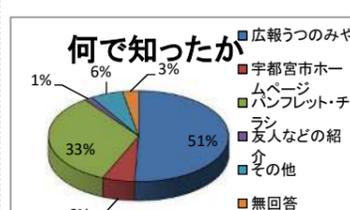
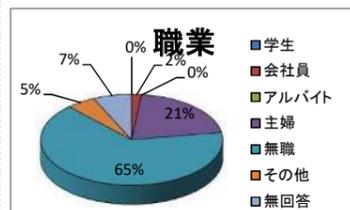
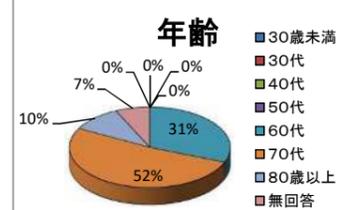
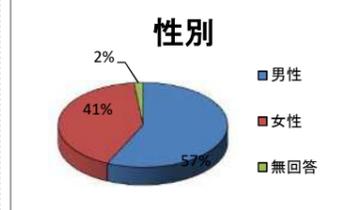
③人生100年時代、地域で暮らす豊かな生活のために



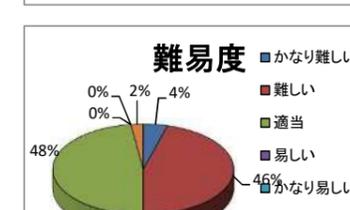
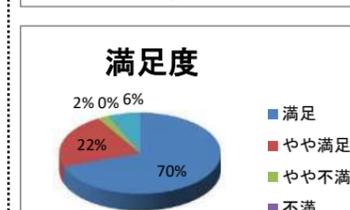
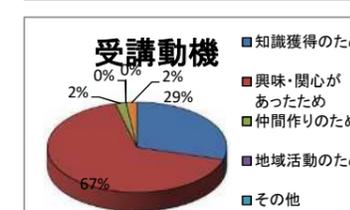
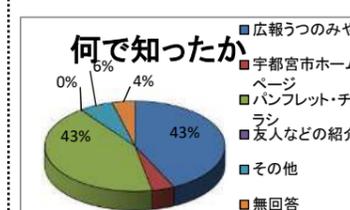
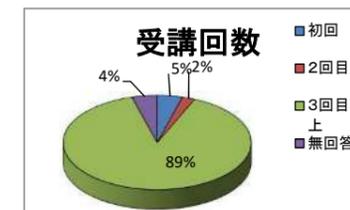
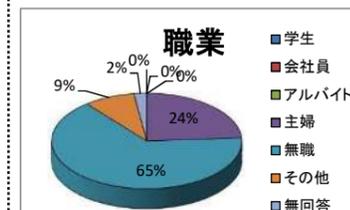
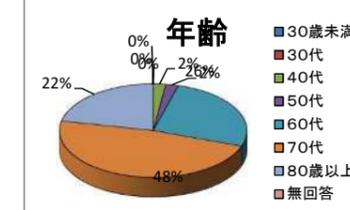
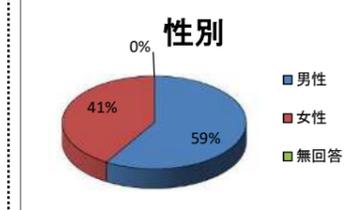
④南極大陸



⑤江戸の科学力！！



⑥三国志の世界



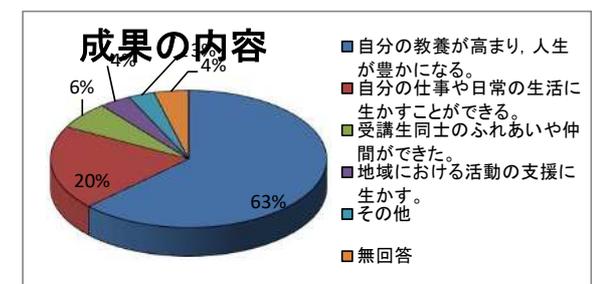
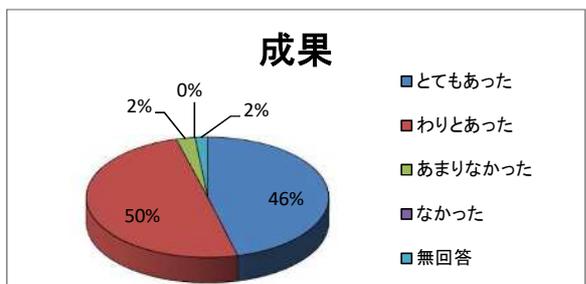
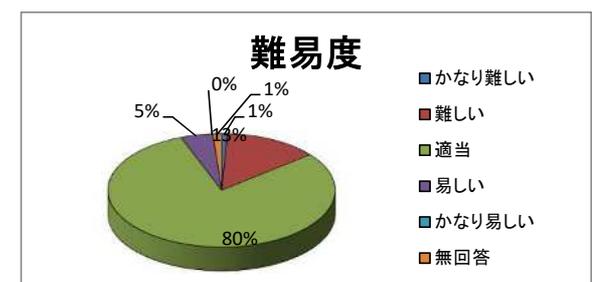
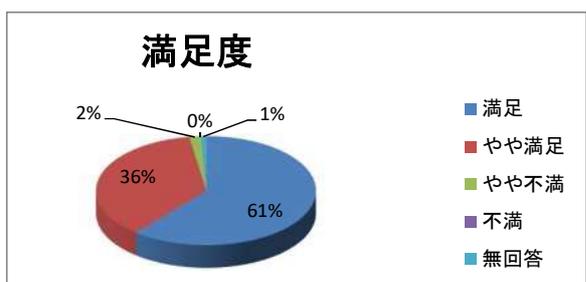
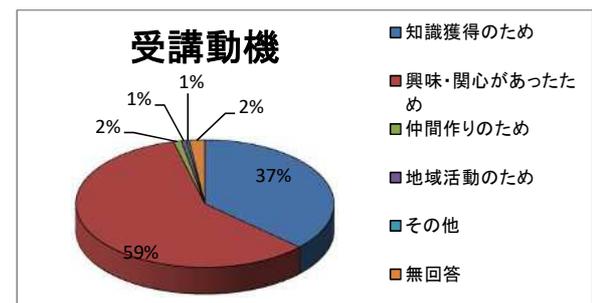
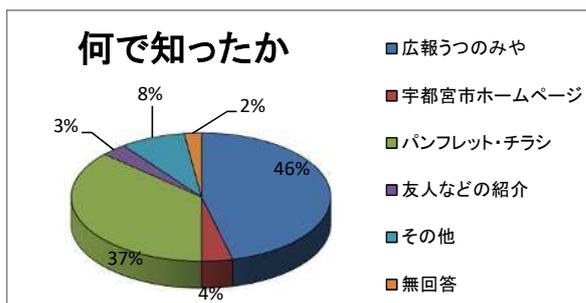
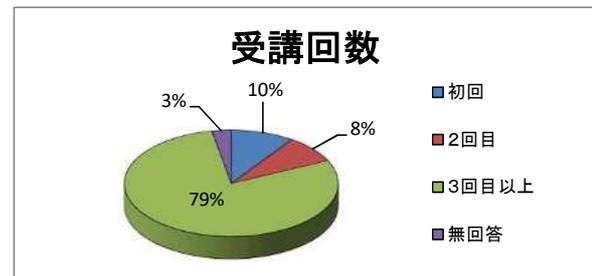
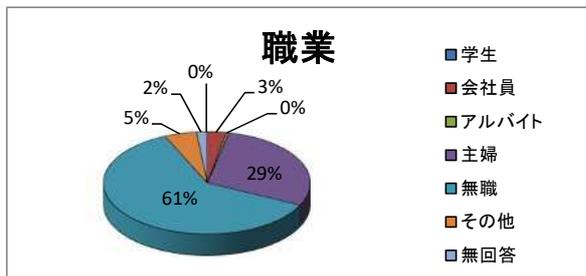
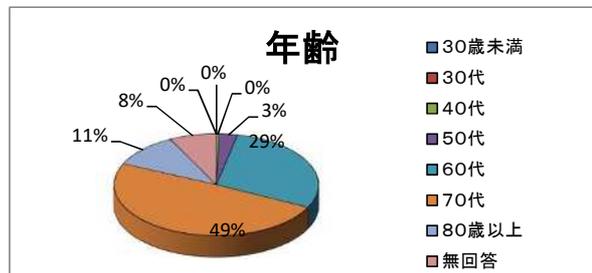
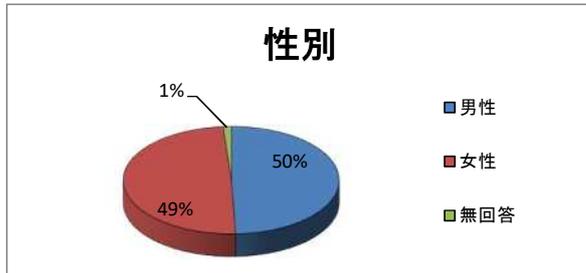
令和元年度 宇都宮市民大学後期専門講座実施状況

別紙3

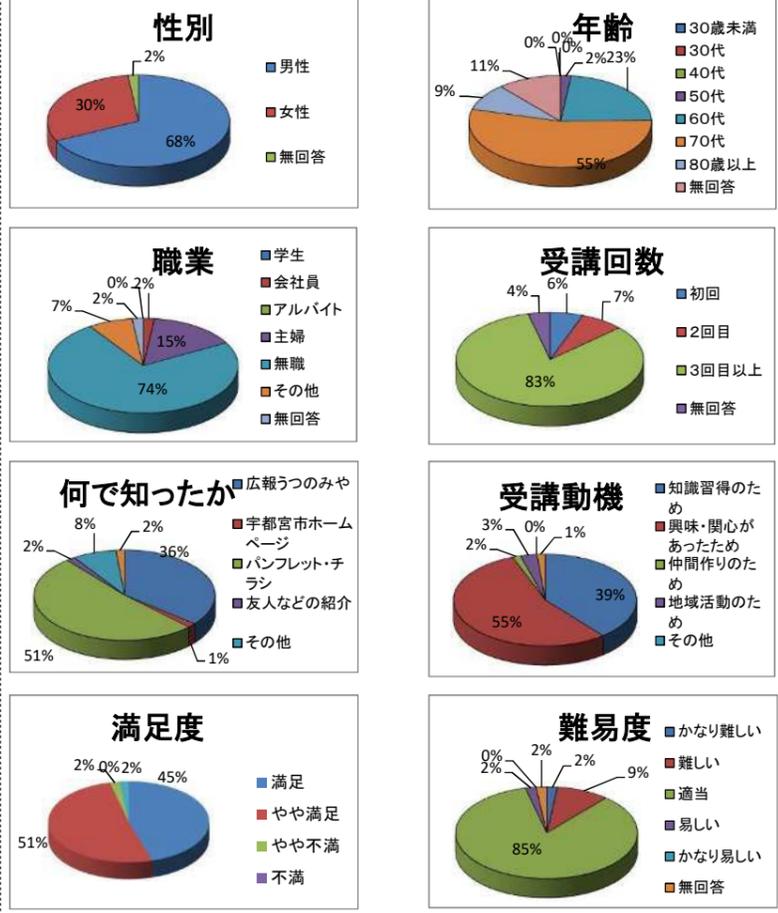
コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	国際的文化人・円仁をはぐくんだ “しもつけ”の風土を考える (全7回)	國學院大學栃木短期大学 教授 酒寄 雅志 氏 准教授 中村 耕作 氏 日本考古学協会 小森 哲也 氏 栃木県考古学会 顧問 竹澤 謙 氏	11/1～ 12/20	(60) [77] 77	70 [65] 92.9%	円仁の時代から遡り“しもつけ”の縄文時代から古墳時代にかけて概観し、その上で国際人として中国で仏法を求めた円仁が育った社会環境や下野の渡来文化などを考古学の成果をもとに学んだ。出土した新羅系土器や文物からしもつけの国が古代においていかに重要な地域であったことや、円仁では、講師の話術に引き込まれつつ円仁の崇高な人柄に触れることができた。最終回では、あまり知られていない「丸山瓦全」の業績を知ることで文化財保護への関心も高まり、私たちの故郷“しもつけ”の更なる魅力を学ぶことで受講生にとって満足度の高い講座となった。	・栃木県の歴史について、縄文から始まった講座は初めての体験でも勉強になった。 ・”しもつけ”を誇れるような内容でもとても有意義な時間だった。 ・円仁を通してしもつけの成立ちや風土を学ぶ事ができた。また丸山瓦全を通して文化財保護の必要性を感じた。 ・講師の積極性に感銘した。 ・円仁の県内における行動などもっと知りたい。 ・円仁の活躍や功績は詳しく理解できたが、下野の風土との関係性がよく分からなかった。
II	カラスを知る ～カラスの生理・生態と 最新カラス研究の紹介～ (全8回) [宇都宮大学連携講座]	宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター 特任助教 塚原 直樹 氏	10/31～ 12/19	(30) [36] 36	30 [25] 83.3%	全8回という長い講座であったが定員を上回る受講希望があり、カラスへの関心の高さがうかがえた。13年にわたってカラスを研究し、その幅広い知識を社会に還元すべくベンチャー企業を立ちあげた講師から、カラスの生理・生態を学んだ。「カラス肉を食用化」では、講師が開発したジャーキーの試食や、最終回では、東京大学客員研究員が開発した「カラス対策ボードゲーム」をグループに分かれどのようにしてカラスから地域を守るか、また身近な隣人としてカラスとどう賢く付き合っていくかを疑似体験するなど、今後の生活に役立つ満足度の高い講座となった。	・「カラス」の鳴き声を聞くとその気持ちを連想するようになったので、生活が楽しくなった。 ・今まで持っていた「カラスの習性」に誤りがあることがわかった。 ・駆除と考えるのではなく、人とカラスの共存をテーマとしていることに共感した。 ・カラスの被害に重点がおかれていたが、カラスと人とのかかわりを文化・歴史の面から知ることができた。 ・使われた資料を共有できるウェブサイトがあると更に良かった。
II	気象で読み解く日本の歴史 ～異常気象との攻防1400年～ (全7回)	日本気象予報士会 東京支部長 気象予報士 田家(たんげ) 康 氏	11/2～ 12/21	(40) [47] 47	43 [41] 95.3%	歴史上の出来事をその時代の記録(物語、藩日誌、等)から振り返り、「乱」「戦い」「一揆」が当時の干ばつ、冷害の時期と重なることやその気候変動が、地球規模の気象変動に関連すること、また、日本以外の大火山噴火も気象に影響することなど、年輪や太陽黒点の変化等、様々なデータを基に、根拠のある説明をされ、「気象」という切り口で検証することで歴史の新たな面白さを発見できる講座となった。台風19号による甚大な被害があった時期で、他人事ではなく自分の身近な学習課題として、将来の気象変動と温暖化について考える機会となった。	・気象(理系)と歴史(文系)とを関係づけた講座、興味深く学習できた。 ・歴史上の出来事や事象の背景にこれ程異常気象が関わっていることを知り、人々の生活の積み重ねが歴史を形作っていること納得ができた。 ・気象で左右された歴史の出来事を学び、違った視点で当時の生活に触れることができた。 ・「良い天気ですね」と挨拶する日本人。米の収穫高は生活の基本。藩の日誌にも天候が記載され、日常が細々と記載されていてびっくり。 ・歴史のターニングポイントで気象が関係している出来事が多いことを知った。 ・実際に歯型を使用しての歯ブラシの当て方等、講義だけではなくだったのでわかりやすかった。 ・このテーマを取り扱ってくれて、本当に良かった。この先、どのように生活していくかも自分なりに取得できたと思う。 ・どの講座もとても参考になったが、特に「災害時に役立つ歯科衛生」は日常の生活でもとても役立つと感じた。これからも日々の実践で心がけたい。 ・テレビやラジオでの情報に加え、生での講義を聞くと再認識される。 ・歯磨き実習を通して、磨いても取れないという事がはっきりした。 ・運動なども取り扱ってくれたと、なお良かった。
II	人生100年時代を健康に生きよう！ ～日々のケアで健康に、 いざというときにも備えて～ (全5回) [栃木県立衛生福祉大学校連携講座]	栃木県立衛生福祉大学校 校長兼歯科技術学部長 青山 旬 氏 歯科技術学部歯科技工学科 教授 清水 一成 氏 助教授 神谷 幸子 氏 助教授 木村 明子 氏 臨床検査学部臨床検査学科 教授 岡本 その子 氏 臨床検査学部 主幹兼部長 奥山 啓子 氏	11/5～ 12/3	(40) [30] 30	26 [25] 96.2%	事務局企画として、初の栃木県立衛生福祉大学校との共催により、今年度の専門講座の中では唯一「健康」をテーマに実施した。講師の配慮により、座学だけではなく実習などを多く盛り込み、一般市民にも理解しやすい工夫が施されていた。特に「災害時に役立つ歯科衛生」では、受講時期がまさに台風災害後であったことから、受講生の受講姿勢も真剣であった。「健康」に関する情報は、メディアを通して山のように得る機会が多いが、実践へ導くためのより専門的な学びとなった。欠席者も少なく、受講生にとって大変満足度の高い講座となった。	・実際に歯型を使用しての歯ブラシの当て方等、講義だけではなくだったのでわかりやすかった。 ・このテーマを取り扱ってくれて、本当に良かった。この先、どのように生活していくかも自分なりに取得できたと思う。 ・どの講座もとても参考になったが、特に「災害時に役立つ歯科衛生」は日常の生活でもとても役立つと感じた。これからも日々の実践で心がけたい。 ・テレビやラジオでの情報に加え、生での講義を聞くと再認識される。 ・歯磨き実習を通して、磨いても取れないという事がはっきりした。 ・運動なども取り扱ってくれたと、なお良かった。
III	歴史を美貌で振り回した女性たち！ ～波乱万丈の生涯に学ぶ～ (全6回)	栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 学芸員 山本 享史(たかし) 氏 國學院大學栃木短期大学 教授 菱沼 一憲 氏	10/28～ 12/9	(60) [110] 85	79 [73] 92.4%	歴史に名を残す女性たち(北条政子、日野富子、お市の方、南呂院、妙印尼)を取り上げ、御台所や後室として政の中心的な役割を担っていたことや女性たちがその時代を読む知力を持ち、財政を立て直し、逞しくもしなやかなに生き抜いたことなどについて、文献からひもひもとした。第6回の下野と関わり深い『南呂院』『妙印尼』について、初めて知ったという受講生も多く、資料も丁寧な作りで後から読み返して振り返ることができると好評だった。今までの印象が変わるようなエピソードも多く、最後まで興味を持って受講でき、満足度の高い講座となった。	・歴史を女性に視点をあて、しっかりと意志を持って生きてきた女性がいたことを学べたことが良かった。 ・歴史が身近になり関心を持つことができたようになった。 ・歴史の流れの話が多く、その時代の女性たちの行動、生活、社会での活躍の話をもっと中心に聞きたかった。 ・中世における女性の地位が意外と高かったことは興味深い。 ・戦国時代の女性は、政治にも関心を持ち、戦いの中で生活していたこと、自立していた女性も多くいたことがわかった。歴史の中の女性の生き方に関心を持つことができた。
III	近世都市「江戸」の歴史 ～東京の礎となった 江戸の歴史を知る～ (全6回)	宇都宮大学教育学部 准教授 高山 慶子 氏	11/12～ 12/17	(60) [105] 85	78 [73] 93.6%	2020年に2度目の五輪開催を控え、世界中から注目を集める「東京」の前身である「江戸」の成り立ちを様々な視点から学んだ。前半3回は江戸の「土地(まちづくり)」に関する事、後半3回は江戸(土地)に住む「人」に関する事を学び、その多くが現代にも受け継がれていることを改めて認識した。講師の配慮により、引用を使った資料・映像を多く活用し、特に江戸城の説明では「よみがえる江戸城」という本の付録CG映像で説明したことにより、あたかも江戸城を歩いているような臨場感を味わえ、受講生に好評を得るなど満足度の高い講座となった。	・時代劇の見方が変わり、好奇心や興味が多くなった。 ・資料も丁寧でわかりやすく工夫され、先生の熱意が伝わってくる充実した講座だった。 ・内容も身近な時柄でもとてもよかった。 ・講座の回数を増やして、中身を掘り下げてほしい。 ・江戸とその周辺の関わり、例えば宇都宮や下野についても聞きたかった。 ・受講後、東京に出かけたが、今までと違った気持ちで散策することができ、気持ちも高揚した。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース				募集定員	290人	【総合的な評価】 6講座中5講座について定員を超える申込みがあり、抽選も行いながらも定員を増やし受講決定をしたが、台風19号の被害などの影響もありキャンセル者が多かった。修了率は今年度から公開講座出席数を含めなくなったことも多少影響してか92.6%と高かった。 また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の96%を占めた。これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	【今後の課題】 ・新規受講者の取り込み 土曜の講座を実施するなど新規受講者の拡大を図り、前期46名、後期47名を獲得できた。今後も、若い年代の関心を引きつけることができる講座設定や広報などの手法を検討する必要がある。 ⇒SNSなど新たなツールによる周知、周知期間の拡大など ・幅広い学習内容での講座の実施 II今を読み解く現代社会コースは、前期1講座であったが、大学連携や事務局企画により後期は1講座実施した。今後も、市民の知的好奇心を満たすため、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座をより積極的に実施していく必要がある。 ⇒企画者(Vスタッフ)への周知啓発、企画選考における配慮など
				応募者数	405人		
				受講決定数(開講前)	360人		
				受講者数(開講後)	326人		
				修了者数	302人		
				修了率(修了者/受講者)	92.6%		

令和元年度宇都宮市民大学後期専門講座 アンケート結果

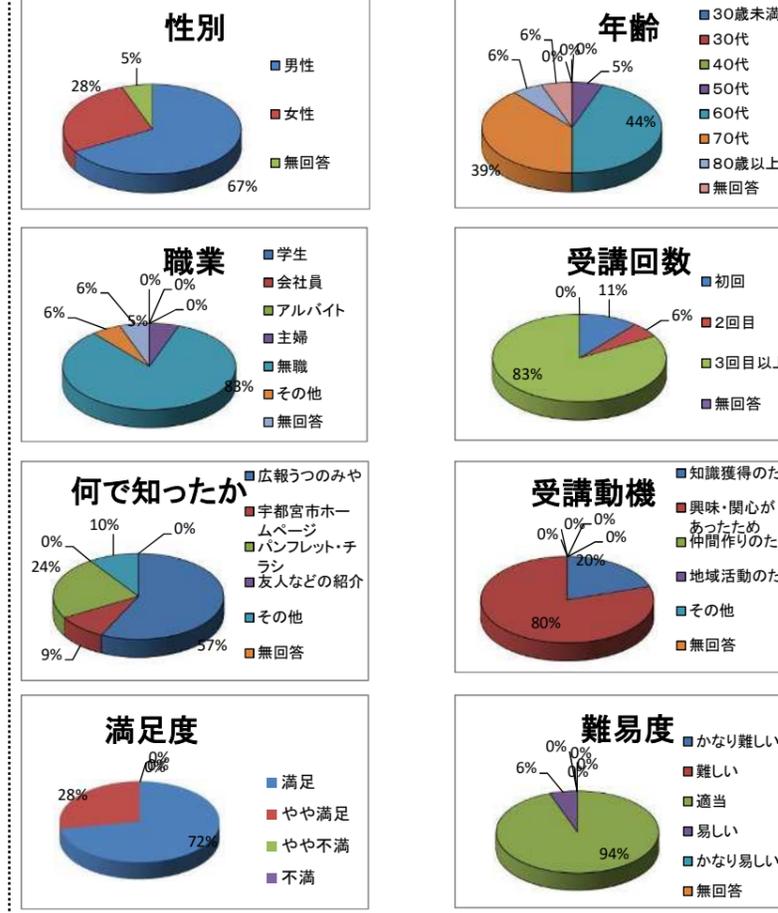
- 1 受講者数 326名
- 2 アンケート回答数 241名
- 3 アンケート回収率 73.9%



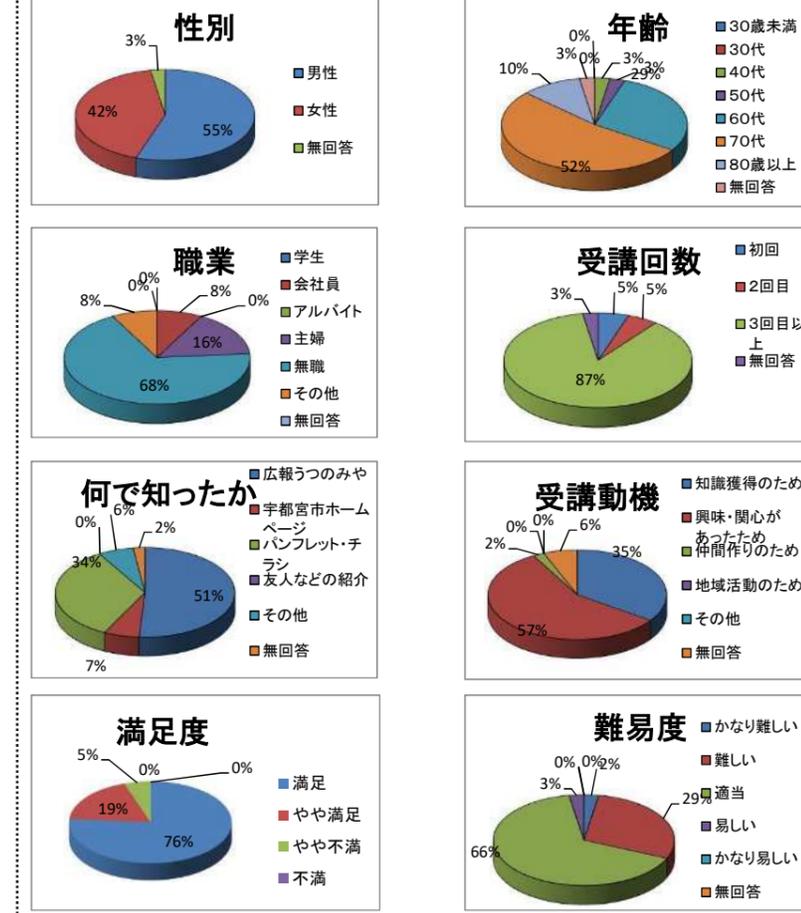
①国際的文化人・円仁をはぐくんだ”しもつけ”の風土を考える



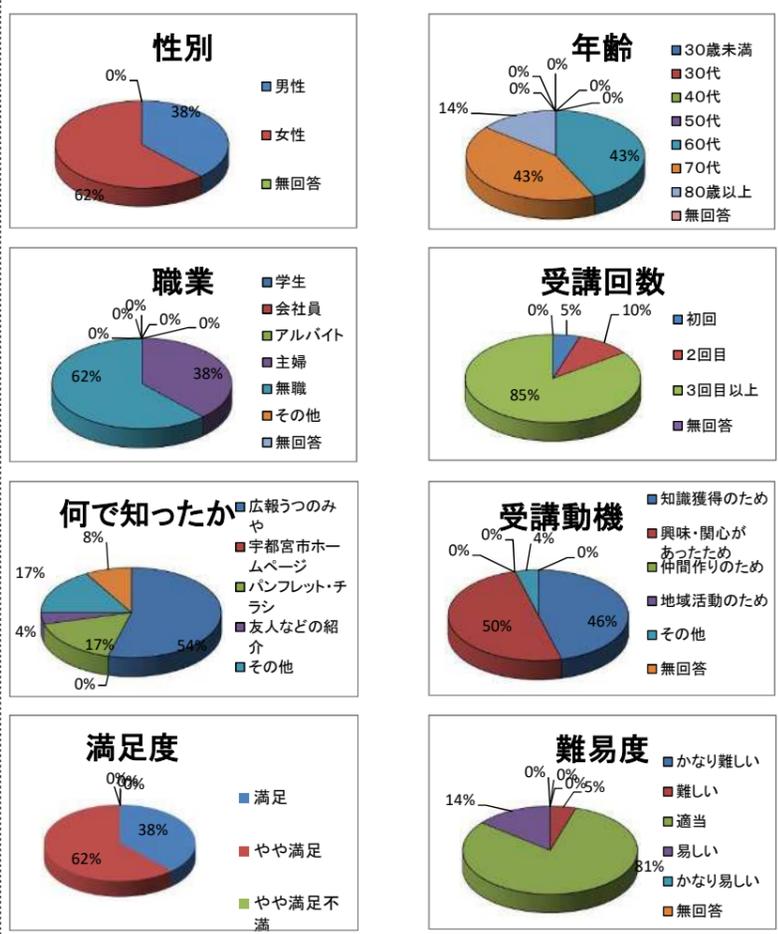
②カラスを知る ～カラスの整理・生態と最新のカラス研究の紹介～



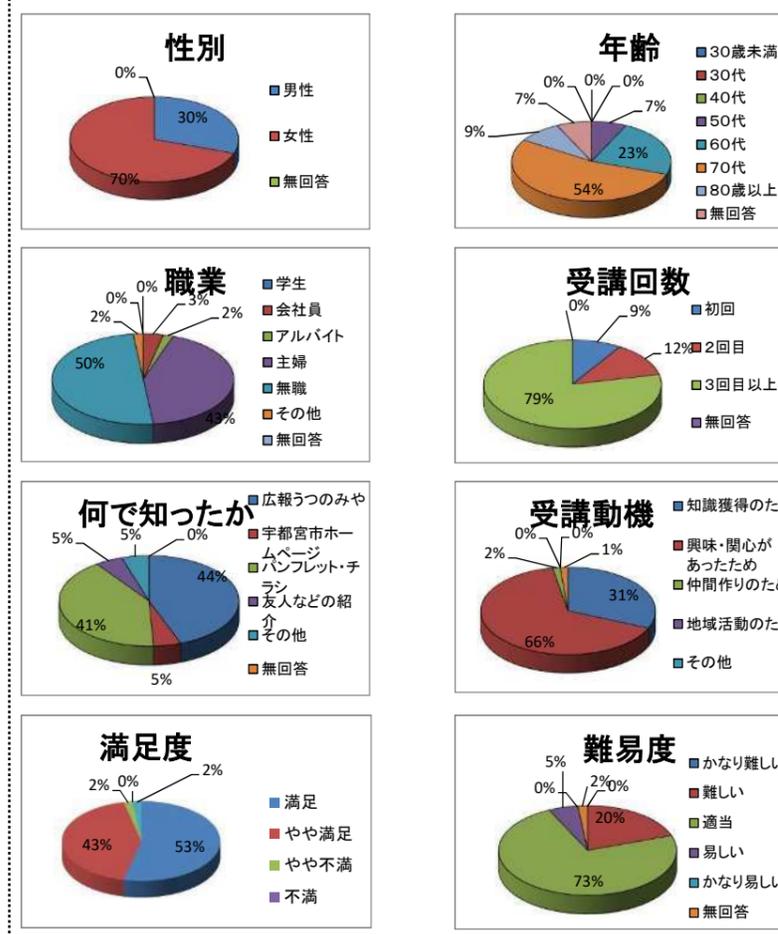
③気象で読み解く日本の歴史 ～異常気象との攻防1400年～



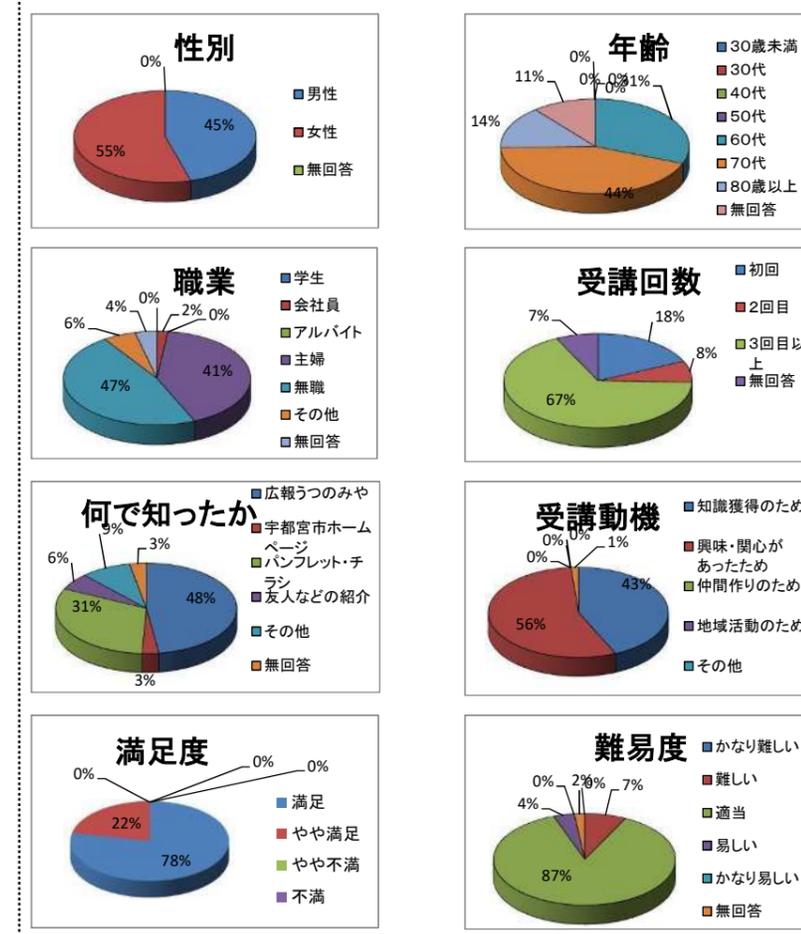
④人生100年時代を健康に生きよう！～日々のケアで健康に、いざというときにも備えよう～



⑤歴史を美貌で振り回した女性たち！～波乱万丈の生涯に学ぶ～



⑥近世都市「江戸」の歴史～東京の礎となった江戸の歴史を知る～



令和元年度宇都宮市民大学収支決算書

収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	2,575,000	2,380,000	△ 195,000	
3 雑収入	1 雑収入	1,000	10	△ 990	預金利子
合 計		4,387,000	4,191,010	△ 195,990	

支出の部

(単位:円)

款	項目	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1 総務費		373,000	261,870	△ 111,130	
	1 報償費	332,000	247,200	△ 84,800	委員謝金
	2 需用費	15,000	10,310	△ 4,690	会議茶代等
	3 役務費	26,000	4,360	△ 21,640	切手代, 委員振込み手数料
2 事業費		4,014,000	3,929,140	△ 84,860	
	1 報償費	2,214,000	2,150,832	△ 63,168	講座講師謝金, 交通費
	2 需用費	1,126,000	1,290,869	164,869	
	(①消耗品費等)	657,000	759,551	102,551	講座紙代, トナーカートリッジ, 受講者用ファイル等
	(②食糧費)	18,000	10,116	△ 7,884	講師茶代等
	(③印刷製本費)	401,000	430,342	29,342	受講者証, パンフレット作成等
	(④修繕料)	50,000	90,860	40,860	機器(カラーコピー機)修繕料
	3 役務費	230,000	142,261	△ 87,739	
	(①通信運搬費)	200,000	119,681	△ 80,319	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	30,000	22,580	△ 7,420	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	84,000	114,840	30,840	館外学習貸切バス料金等
	6 負担金, 補助 及び交付金	360,000	230,338	△ 129,662	専門講座企画運営費
合 計		4,387,000	4,191,010	△ 195,990	

決算収入額	4,191,010 円
決算支出額	4,191,010 円
差 引	0 円

監 査 報 告 書

宇都宮市民大学運営協議会設置要領第7条第2項の規定に基づき、同協議会の収支決算について、関係諸帳簿及び証拠書類等を監査しましたところ、いずれも適正であり、決算書のとおり相違ないことを認めます。

宇都宮市民大学運営協議会

会長 川本 清 様

令和 2 年 3 月 31 日

監 事

小針 協子 

令和 2 年 3 月 31 日

監 事

野中正知 

令和 2 年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

1 令和 2 年度事業の考え方

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

令和 2 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による高度で専門的な内容の講座を実施する。また、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、幅広い学習内容で展開することで、受講者満足度の向上を図るとともに、積極的に土・日や夜間の時間帯に専門講座を実施することや、新たな手法による公開講座を実施することにより、市民大学の認知を拡大し、新規受講者の獲得を図る。

2 前期専門講座

表 1 のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ（V スタッフ）企画講座を 5 講座（No. 1, No. 2, No. 4～No. 6）、文星芸術大学による連携講座 1 講座（No. 3）を予定したが、コロナ感染防止のため実施困難との判断により中止とする。

【表1】前期専門講座一覧

No.	(講座コース) 講座名(開講数)	講師	開催 期間	定員
1	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース 名城に名将有り！下野の古城 ～館から城郭へ、中世の城の役割～ (全8回)	栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 小山市立博物館 副館長 佐久間 弘行 氏 栃木県文書館 古文書専門員 荒川 善夫 氏 大田原市 黒羽芭蕉の館 学芸員 新井 敦史 氏 宇都宮教育委員会事務局文化課 主幹 今平 利幸 氏 宇都宮市文化財ボランティア協議会	5/25 ～7/13	60人
2	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース 鬼怒川物語 ～宇都宮を流れる鬼怒川の昔と今～ (全7回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏 栃木県立博物館 名誉学芸員 柏村 祐司 氏	5/26 ～7/7	70人
3	II 今を読み解く現代社会コース 【文星芸術大学連携講座】 マンガと日本人 ～マンガ媒体の発展・ 人の心を動かすメカニズム～ (全7回)	文星芸術大学 マンガ専攻 准教授 堀江 一郎 氏	5/29 ～7/10	30人
4	III 暮らしを彩る教養コース 再入門！たのしい科学 ～予想し実験で確かめる！ これであなとも科学者になれる～ (全7回)	仮説実験授業研究会 全国代表委員 湯澤 光男 氏	5/30 ～7/18	50人
5	III 暮らしを彩る教養コース 像の魅力を探る (全7回)	文星芸術大学 総合造形専攻 准教授 大澤 慶子 氏	5/29 ～6/26	50人
6	III 暮らしを彩る教養コース 信長・秀吉・家康 ～戦国三大カリスマの知られざる実像～ (全7回)	共立女子大学 文芸学部 教授 堀 新 氏 専修大学 文学部 非常勤講師 毛利 豊史 氏 実践女子大学 人間社会学部 非常勤講師 堀 智博 氏	6/8 ～7/13	50人

3 後期専門講座

表2のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座（No.1～No.4）、大学連携講座【作新学院大学】（No.5）、事務局企画講座（No.6）を実施する。

ア 開催期間 令和2年10月～令和2年12月

イ 開催回数 未定

【表2】後期専門講座一覧

No.	講座名	開催期間
1	大谷石のことをもっと知ろう ～石の街「うつのみや」であるために～ (郷土を愛する地域・文化・歴史コース)	10月～
2	天皇家と栃木県民と自然 ～栃木県の自然を愛される歴代天皇のお姿～ (郷土を愛する地域・文化・歴史コース)	10月～
3	陶芸の世界 ～笠間焼・益子焼を極める～ (暮らしを彩る教養コース)	11月～
4	不朽の名作には秘密がいっぱい ～あなたの知らない西洋美術の世界～ (暮らしを彩る教養コース)	11月～
5	【作新学院大学連携講座】 (タイトル未定) (コース未定)	未定
6	【事務局企画講座】 (タイトル未定) (コース未定)	未定

【公開講座@2,000（前期中止）】令和2年度宇都宮市民大学収支予算書（案）について

収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	1,750,000	2,575,000	△ 825,000	
3 雑収入	1 雑収入	1,000	1,000	0	預金利子
合計		3,562,000	4,387,000	△ 825,000	

支出の部

(単位:円)

款	項(目)	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 総務費		364,000	373,000	△ 9,000	
	1 報償費	332,000	332,000	0	委員謝金
	2 需用費	12,000	15,000	△ 3,000	会議茶代等
	3 役務費	20,000	26,000	△ 6,000	開催通知郵送料等
2 事業費		3,198,000	4,014,000	△ 816,000	
	1 報償費	1,738,000	2,214,000	△ 476,000	講座講師等謝金, 交通費
	2 需用費	738,000	1,126,000	△ 388,000	
	(①消耗品費等)	368,000	657,000	△ 289,000	講座紙代等
	(②食糧費)	11,000	18,000	△ 7,000	講師茶代等
	(③印刷製本費)	309,000	401,000	△ 92,000	パンフレット作成, 受講者用ファイル等
	(④修繕料)	50,000	50,000	0	機器修繕料
	3 役務費	194,000	230,000	△ 36,000	
	(①通信運搬費)	167,000	200,000	△ 33,000	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	27,000	30,000	△ 3,000	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	168,000	84,000	84,000	館外学習貸切バス料金, 公開講座会場使用料等
	6 負担金, 補助 及び交付金	360,000	360,000	0	専門講座企画運営費
合計		3,562,000	4,387,000	△ 825,000	

令和2年度公開講座について

平成23年度から、前期、後期講座の開講に際して、「合同開講式・公開講座」を実施してきた。令和2年度からあり方を見直し、市民大学の周知及び認知の向上を図るため著名な講師を迎え、独立した講座として年1回実施する。

なお、合同開講式は廃止し、開講式は専門講座の各冒頭で行う。

(1) 実施日

令和3年2月21日（日）【予定】

(2) 会場

市文化会館小ホール【予定】

(3) 実施内容

各分野の第一人者（著名人等）による講義等

※講師の選考

磯田道史（日本史家）や山中伸弥（京都大学 iPS 細胞研究所所長・教授）等を候補に業者等を通じ予算30～50万円で講師交渉を試みるも、講師謝金や日程が折り合わず。

今回は、新たな手法による公開講座の初回であることから、予算を70～100万円に増額し講師交渉を行っていく。

なお、講師の決定にあたっては8月の運営協議会にて行う。

(4) 受講料

- ・有料（講師謝金により調整）
- ・公開講座受講者のみから徴収